

原水協活動推進News

発行：原水爆禁止日本協議会 電話：03-5842-6031 FAX：03-5842-6033

Eメール antiatom55@hotmail.com 2010年10月13日 No.8

米国が未臨界核実験を強行(9月15日)

国家核安全保障局ネバダ現地事務所ニュースによると、ニューメキシコ州のロスアラモス国立研究所が9月15日、米ネバダ州最大の都市ラスベガス北西約100キロのエネルギー省の核実験場「ネバダ国家安全保障施設」でオバマ政権では初となる未臨界核実験「バックス」を強行したことが判明しました。2006年8月30日に行われた前回の未臨界核実験「ユニコーン」に続き、「バックス」は今日までで24度目の未臨界核実験となります。



▲米ネバダ州

今年5月、国連本部で開催された核不拡散条約（NPT）再検討会議で「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ことを目標しました。また、核兵器のない世界をつくり、維持する枠組みをつくるための「努力」などをすべての国の政府に課していることから見てもとうてい許されません。

広島原水協が被爆者らと抗議の座り込み行動



▲座り込んで抗議する県原水協や被団協のメンバー（10/13 広島平和公園）

広島県原水協は13日、広島県被団協のメンバーら約50人と平和記念公園の原爆慰霊碑の前で未臨界核実験に対する抗議の座り込みを行いました。

強い日差しが照りつける中、「アメリカの未臨界核実験に抗議する！」と書かれた横断幕を掲げた参加者は冒頭、原爆犠牲者の冥福を祈り黙とう。広島・長崎の被爆の実相、被爆者の65年にわたる苦難を受け止め、一刻も早い核兵器廃絶のために積極的なイニシアチブを発揮するよう強く求めるオバマ米大統領あての抗議文を読み上げました。

21、22日の中央行動を成功させよう！



最新情報はコチラ→原水協通信 blog | <http://www.antiatom.org/Gpress/>
携帯電話からもアクセスできます。

アメリカ合衆国大統領
バラク・フセイン・オバマ 殿

アメリカの未臨界核実験に断固抗議する

10月13日付け新聞報道等によれば、貴国は、去る9月15日午後5時35分に24回目、貴政権では初めての未臨界核実験を行った。

われわれは、今回の未臨界核実験に断固抗議する。

貴職は、昨年4月、プラハでの演説で、核兵器を使用した唯一の国として、「道義的責任がある」ことを認め「核兵器のない世界」のために行動する、と宣言し、広島・長崎の被爆者をはじめ多くの人びとに新たな希望をもたらした。

そして、今年8月6日の広島市平和祈念式典には、駐日大使が初めて参加し、貴国の「変化」の一端を示すものとして、期待が集まった。

また、5月の2010年NPT再検討会議では、貴国も含めて合意した最終文書に「核兵器禁止条約」に留意するとの文言がはいり、次回再検討会議へ向けて、2014年の準備委員会に、核保有国が、核兵器廃絶のための進展状況を報告することが確認された。

これらの一連の動きは、被爆者はもちろん全世界の悲願である核兵器廃絶の世論を反映したものであり、核兵器廃絶への流れを加速することにつながるものである。

しかし、今回の貴国の未臨界核実験は、先の貴職の言動にも著しく矛盾し、世界中の人々を失望させるものである。

またこのことは、今年のNPT再検討会議の最終文書の精神からも逸脱しており、核兵器廃絶の世論に背く、核大国の身勝手な行為と言わざるをえない。

われわれは、貴職が、広島・長崎の被爆の実相、被爆者の65年にわたる苦難を受け止め、未臨界核実験を今後一切行わないこと、また一刻も早い核兵器廃絶のために積極的なイニシアチブを発揮するよう強く求める。

2010年10月13日

原水爆禁止広島県協議会

筆頭代表理事 大森 正信

広島県原爆被害者団体協議会

理事長 金子 一士

憲法と平和を守る広島共同センター

代表 尾野 進